

第1回西京区・洛西地域の新たな活性化に向けた意見交換会の意見まとめ

- 日時：平成27年11月9日（月）19:00～21:15

- 場所：西京区洛西支所 大会議室

- 参加者：24団体24名

※意見交換会参加対象：平成25年度から27年度の西京区地域力サポート事業採択団体（64団体）のうち、①自治連合会、自治会及び町内会で組織する団体②各行政区又は学区単位で組織する既存の各種団体（体振、少年補導など）を除いた団体（43団体）

- 傍聴者：3名

- 意見交換のテーマ等

これまでの懇談会での議論をふまえ、「定住」と「交流」をテーマに、現況資料を参考としながら、参加者各人の地域活動の内容や問題意識等をもとにして、地域課題及び今後取り組むべきこと・取り組めることについて5つのグループに分かれて意見交換を行った。

※その他、参加が叶わなかった参加者1名より文書で意見をいただいた。

- 各グループ参加者と主な意見要旨

	参加者	主な活動分野
1班	桂坂景観まちづくり協議会	まちづくり（景観保全）
	公立大学法人京都市立芸術大学	文化・芸術（芸術大学・教育）
	西京塾	生涯学習（区民主体の学びの場）
	西山高原アトリエ村	文化・芸術（オープンアトリエ）
	NPO法人らくさいライフスタイル	まちづくり（事業プロデュース等）

【定住に関する主な意見要旨】

- ニュータウンにおける極端な高齢化の問題がある。若者の転入促進が必要。
- 若者が住みたいと思うまちにするために、まちの魅力を高める必要がある
- ニュータウンや桂坂では、お茶やお酒を楽しむ場、おいしい食事を楽しむ場が少ない
- ニュータウンでは、若年ファミリー層が住むための住宅供給が不足していることなど、若者が住むための住まいの不足していることから、空き家の活用や公的賃貸住宅を活用した定住促進が必要。
- 自宅近くでの保育サービスや、夜間保育など、子育て層のニーズにあった子育て支援サービスが不足していることから、ニーズにあったサービスの拡充が必要。

【交流に関する主な意見要旨】

- まちの情報発信不足・アピール不足していることから、いいところを多くの人に発信する必要がある
- 芸大移転後における「芸術」とまちづくりのあり方を考える必要がある。
- 市民が芸術活動に触れる機会を増やすために、イベントの展開など
- アートレジデンスなど芸術・文化活動と観光振興の連携が必要
- 地域の祭りやイベントを盛り上げる人材ネットワークが不足していることから、人材や資源に関する情報をつなぐ仕組み、場づくりが必要。

2班	参加者	主な活動内容
	大枝見守り隊	子ども（見守り活動）
	桂坂古墳の森保存会	自然環境保全（公園管理、自然活動）
	境谷ミュージックライブの会	芸術・文化（音楽）
	西京銭湯部隊 沸いてるんジャー	まちづくり（住民交流等）
	マミーズアップ	子ども（ママ支援、子育て支援）

【定住に関する主な意見要旨】

- 生活圏の違い、阪急など線路で物理的に分断されている。
- ふるさと化してしまっている。若い人が住みなくなる暮らしやすい街にする
- 自治会未加入やご近所付き合いがなくなりつつあるなど、地域での関係が希薄化、自治会のあり方を見直すこと、地域活動への参加を促すような人材が必要。
- 住民自身が地域の魅力に気付ける、愛着を持てるようにする必要がある。
- 子どもたちが安心して遊べる場所・環境が必要、子育て世帯やママが安心できる情報や環境を身近につくる必要がある。
- バス本数は多いが効率的でなく不便に感じる。
- 住む場所は仕事の都合で決まるという状況がある。

【交流に関する主な意見要旨】

- 住民活動を一層広く知らせていく必要がある。特に潜在的に関心や経験のある人に対して
- 地域によって公共交通が不便、生活圏やその意識も地域で異なる。そういった点で地域の中が分断されているように感じる。
- 高齢者の生活上の不便を住民同士で解決できるコミュニティビジネスが必要。
- 子どもを見てもらひながら働ける場が身近に必要、多世代で交流できる支えあえる場が必要。空き家などを活用してそういう場をつくれないか。

3班	参加者	主な活動内容
	大原野元氣畑	園芸・農業（居場所づくり）
	桜原町家灯籠会	まちづくり（保全・交流）
	シニアクラブ福和会	まちの美化・環境保全
	アートスペースあけぼの	文化・芸術（アートの技術を社会につなぐ）
	洛西ニュータウン創生推進委員会	まちづくり

【定住に関する主な意見要旨】

- 若者が住み続けられる地域づくりが必要。洛西ニュータウンへのIターンの促進も必要。
- 地域のコミュニティが希薄になっている。
- 子どもが著しく減少している一方、高齢化が進み、独居やひきこもる人もいる。世代間交流を促進していくことや、高齢者の日常生活支援が必要。
- 特にニュータウンの交通利便性が低い、駅がないと活気もなく、若者も車を持ってない時代になっている。交通環境を充実する必要がある。
- 商店が減っている。地域産品をいかした活気作り、販売拠点などが必要。
- 地域で仕事ができる仕組みづくりなど、若者が働く場をつくっていく必要がある。

【交流に関する主な意見要旨】

- 外出困難な高齢者への対応が十分でない。
- 元気な高齢者が地域のために活動できる場や、コミュニティビジネス小さな販売を支援することが必要。
- 寺社仏閣や自然が多いことから、地域資源をPRするためのマラソンコース認定、集客時の商品販売などができないか。洛西ニュータウンの自然豊かな環境をPRする機会や発信力を高めることで、交流や若者の定住につなげられないか。

4班	参加者	主な活動内容
	小畠川花木と野鳥魚を育てる会	自然・環境保全
	けやき百選クラブ	農業・食（マルシェ開催）
	青少年の健全育成を考えるフォーラム	青少年健全育成
	西京たんぽうクラブ	まちづくり（地域資源魅力発掘・発信）
	NPO法人洛西福祉ネットワーク	地域福祉（居場所づくり）

【定住に関する主な意見要旨】

- 母子家庭や生活保護世帯が多いように感じる。留学生も居住に困っていることから、多様性に対応できるまちづくりの推進が必要。
- 自治会の加入率が下がっている、若い担い手が不足している。自治会のあり方、NPOが担うなど変えていく必要がある。
- 京都大学と連携した教育環境の充実で、若い世代を呼び込む。
- 交通が不便、芸大も移転することから、若年層が流出するのではないか。買い物客も減ることから、まちの魅力、活気低下が進むのでは。交通インフラの整備が必要。
- 企業誘致や雇用創出が不足、沓掛インターチェンジや京大の活用等による新たな産業の振興が必要。
- 芸大移転によりこれまで育まれた文化芸術に親しむ風土がなくなるのでは。文化の香りが残るまちづくり、日常的な芸大とのつながりの確保が必要。
- 現状のままでよいと考える住民もいる。

【交流に関する主な意見要旨】

- 区域外・地域間を結ぶ交通機関の整備が必要。
- 芸大跡地については京大とも連携した産業振興のための活用はどうか。
- 地域の資源を活用した産業振興・雇用創出のために、高齢者の活躍できるコミュニティビジネスの支援
- 地域外の人へのPRが不足している。インターチェンジや主要駅、芸大跡地を情報発信サテライトに買うようするなど、PRを強化。
- 地域内での交流も希薄になっていく恐れがある、ネットワークづくりが必要。
- 地域団体間の連携を促進し、人材を発掘していく。
- 地域資源・魅力に気づける機会づくり（例：まち歩き）が必要。
- 観光地と居住地の棲み分けが必要。先着的なゾーニングやルールづくりを。
- 他地域との具体的な交流にむけた取組の実施。

5班	参加者	主な活動内容
	桂川こどもまつり実行委員会	子ども（お祭り）
	健康づくりサポートーらくさい	健康・保健
	西京・ふらっと婚活	交流（婚活支援）
	洛西フリースペース	子ども（フリースペース、居場所づくり）

【定住に関する主な意見要旨】

- 仕事をしながらでも地域に関われるような地域づくりをすすめていく。
- 自然豊かな子育てによいまちであることをもっとPRする。子育て施設の充実など総合的な子育ての魅力アップが必要。
- 独居のお年寄りが増えている。ウォーキングなど外に出てきてもらう活動を続けていく必要がある。
- 大阪都心や京都市中心部へ働きに出る人が多く、若い人の雇用が必要。長時間労働環境の改善がなければ共働きには住みにくいのでは。地域内の雇用を生み出し、職住近接を選ぶ若年層に支持されるはず（農業やコミュニティビジネス）
- 住居については若い世代が入りやすい家賃設定、間取りが出てくるとよい。

【交流に関する主な意見要旨】

- 家庭内・地域内での交流が大切。独身若年層は出会いの場がない。
- 子ども遊び場が減っている。フリースペースなど工夫しながら遊び場をつくっていく。
- お年寄りが外出するきっかけや行く場所がない。地域の人が声かけ、見守る形での交流が大切。
- 交通が不便、区内でも距離を感じる。敬老バスは高齢者が外出するきっかけになっている。区内で利用する施設への利便性を高める交通機関、区役所と支所を結ぶ循環バスなどがあるといい。

意見交換会 意見要旨（まとめ）

本まとめは、地域で活動している立場や経験からグループワークで出された西京区・洛西地域の課題と特徴、今後必要な取組の視点等の意見をまとめたものである。

1. 【定住】に関わる西京区・洛西地域の課題・特徴と必要な取り組みの視点

【若年層の定住促進】

○ 高齢化する地域への若者の転入促進

ライフスタイルの変化で高齢者と若者が同居しなくなっている。特に、洛西ニュータウンにおいて極端な高齢化が進んでおり子どもが急減しており、ふるさと化してしまっている状況がある。

その他の地域でも若者の転出により高齢化が進んでいくことが想定されることから、転出する理由をしっかりと把握する仕組みが必要だろうし、Iターンの促進や若者が住みたいと思う町にしていく必要がある。

○ 若者が住みたくなる住まいの供給・充実

ニュータウンでは若年ファミリー層が住むための住宅供給が不足している。若者が住みたくなる住宅供給（経済状況やニーズを踏まえた家賃や間取り）が必要だ。

今後、空き家が増えることもふまえ、リノベーションなどによる活用や公的賃貸住宅の活用、子どもが出た後の高齢者の住まいと転入希望の若年ファミリー層の住宅を入れ替えるなどの世代間での住宅のミスマッチを解消するような施策の検討など定住促進の仕組みの整備が必要である。

○ 若者を呼び込むためのまちの魅力づくり・発信

そもそも住民が魅力に気付けていなかったり、愛着をもったりしていないこともある。子どもの頃から愛着を持てる機会をつくったり、眠っている資源や魅力を発掘したりする機会をつくっていく必要がある。また、祭りや人のつながりも魅力を高める大切な要素だ。

魅力をつくりていくために、例えば歴史の浅いニュータウンでは、周辺地域との連携が必要であり、まちの文化的背景も高めることが必要である。具体的にはアーティストの力を活かした「アートのまち」を目指すことや、京都大学との連携などによる教育環境の充実により、若年層や子育て層を呼び込むことも可能ではないか。

【住民同士のつながりづくりと支えあい】

○ 住民同士が身近につながれる場、コミュニケーションを豊かに

ますますご近所付き合いがなくなっていると感じる。例えば、ニュータウンや桂坂では、地元で集まる場（飲食店含め）が少ない。また、今後、芸大移転により学生と住民だけでなく、住民同士の交流も少なくなることが危惧される。

空き教室を活用した世代間交流を促進するなど、住民同士が集い、つながれる場を整えていく必要がある。

また、自治会に加入しない世帯（特に若年層）が増えてきている。負担を減らす工夫や未加入でも地

域のイベントに参加できるようにするなど、自治会運営のあり方、担う役割や担い手（NPOなど）を見直し、変えていく必要があるのではないか。

○ 西京区内の各地域の生活圏の違い、線路での地域の分断という特徴があるのでは。

区内地域によっては向日市等、生活圏が隣接自治体に向いているところもある。また区内では線路で学区が分断されているなど、生活や住民同士のつながりづくりに影響がでているという特徴があるのではないか。

【多世代が支えあい、安心して暮らせる環境づくり】

○ 安心して子育てができる環境の充実

子どもたちが安心して遊べる場所・環境がなくなりつつあり、そういった場を危険箇所の対処も含め、どう作り直していくのかが課題となっていることから、自然環境を活かした子育て環境の充実や発信、子どもの見守り活動をさらに充実させていく必要がある。

特に共働き家庭にとって、自宅近くにニーズに合った保育サービス（夜間保育等）、子育て支援サービスが不足している。安心して子育てができる環境をつくりには、情報の見える化や健診、身近なところでママ同士がつながれる場、機会など多様な環境を整える必要がある。

○ 更なる高齢化にむけた、住民同士で支えあう福祉の充実

高齢者が生活上の不便を家族やご近所で解決できなくなってきており、外に出られない高齢者も増えている。

買い物支援など暮らしの困りごとを解決するための住民活動と地元経済が連動するようなコミュニティビジネスや地域通貨のようなものを生み出すことで区内の雇用にもつなげられるのではないか。また、高齢者が外にでてきくなるような活動や若者と高齢者が交流できるような居場所づくりを既存の施設等をつかってできるのではないか。

○ 生活困窮世帯を支えるための仕組みづくり

母子家庭や生活困窮家庭などを支える仕組みや生活に合わせて柔軟に転居できる環境づくりも必要。留学生も居住に困っているようだ。多様性に対応した居住環境づくりを進めていく必要がある。

【交通の利便性の向上】

○ 交通の利便性を高める取組が必要。

特にニュータウンなど公共交通の利便性の低い地域では、高齢者や若者が車を持てない・乗れない状況も実態としてあることから、移動に問題が生じてくる可能性がある。また、駅から遠い地域はお店等も少なく活気がなくなっている。

区全体で見ればバス路線が一定充実しているが、運賃が高いことや本数は合って経路や運行時間が重複しているなど、必ずしも利便性は高くない。単純に本数を増やすだけでなく、バス会社各社と市民が議論し利便性を高める運行時刻など検討するなどできるのではないか。バス以外にも桂川駅と桂坂やニュータウンを結ぶ新しい交通機関（モノレールなど）を検討できないか。

【定住につながる産業・雇用づくり】

- 居住は仕事の都合により左右されることをふまえるべき。

住み続けたくても仕事の都合（通勤先、転勤、長時間労働など）により親も子も住む場所を選ばざるをえない社会の状況も踏まえながら、何ができるか検討していくべき。まずは、仕事都合以外で転出していく理由を具体的に把握していくことは必要ではないか。

- 地元で若者が安定して働くことができる場が必要

若者が定住するためには、安定した仕事、生活に必要な店舗・施設が必要だが、商店等が少なく、活気がないように感じられ、ニュータウンでは出店に規制もある。実態として、大阪都心や京都市中心部に働きに出ている人が多い。

西京区で若者が仕事できる環境を整え、コミュニティビジネスや農業など職住近接を選ぶ若年層が住みたくなる町にしていく必要がある。例えば、地域產品・農産物等をいかした新しい産業の育成、高速道路のポテンシャルや芸大跡地を活用した地域産材の販売拠点づくり、京都大学と連携した産業振興としてITベンチャー企業の育成などをすすめてはどうか。

また、都心で働く人にとっても寝に帰るだけのまちにはせず、仕事をしながらも地域と関われるようなまちづくりをすすめていくべきではないか。

2、【交流】に関わる西京区・洛西地域の課題・特徴と必要な取り組みの視点

【まちの魅力の発掘・発信の強化】

○ まちの魅力をもっと発信していく

西京区のよいところをもっと多くの人に知らせていくための取組が必要だが、外への発信がまだまだ弱い。主要駅やインターチェンジでのPRの強化、芸大跡地を活用した情報発信サテライトの設置をしてはどうか。

魅力を伝える取組として、西京区内の寺社仏閣、自然を活かし、組み合わせた観光客の誘致、区内外の新しい交流の場づくり、そこでの地元産品の販売などを考えていくべきだ。例えば、自然環境・田園空間を活かした「ピクニック」をテーマにした取組や、西京の地域資源を回るような市民マラソンコースの認定などが考えられる。

【芸術・文化を活かしたまちづくり・観光振興】

○ 芸大移転を契機に、芸術・文化を活かしたまちづくり・観光振興を進める

芸大移転を契機に、市民が芸術に触れられる機会を増やすことで文化の香りが残るようなまちづくりにつなげることができないか。例えば大原野・大枝などの地域資源・景観を活用した芸術活動の促進、市民の芸術活動の促進するスケッチ会などのようなイベントなどを検討できないか。

また、芸術・文化活動による外部からの交流人口の確保も考えるべきであり、アートレジデンスなど外に発信できる芸術・文化関連コンテンツを誘致してはどうか。

芸大跡地は、芸術・ものづくり拠点としての活用の可能性があるのではないか。

○ 居住地と観光地の棲み分けが必要

交流と日常の住まいは棲み分けし、観光客がたくさん来ても困らないような工夫が必要だ。戦略的なゾーニングや地域内でのルール作り、それらに基づいた観光地づくりや集客を実施していくべきだ。

【地域の活動を活かした交流の促進】

○ 地域のお祭り・イベントを盛り上げることで、交流につなげる

地域には魅力的なコンテンツや人材がいるが、共有できていない。芸大の学生の力も含めて活かしきれていないことから、お祭りやイベントを盛り上げるための人材や資源に関する情報をつなぐしくみや、芸大の人材とまちの課題をつなぐための場作りが必要ではないか。

○ 住民活動への参加のポテンシャルのある住民を発掘、参加を促す

住民の活動が地域の中でもまだ知られていない。活動に参加していない住民でも潜在的にスキルや関心をもっている人達がいるはずで、その参加を促すことで、活動は活発になり、交流がすすむのではないか。活動している住民は促す役割を果たしていく必要がある。

○ 元気な高齢者が地域のための仕事・活動できる支援

元気な高齢者が地域にはたくさんいる。高齢者が地域のために活動・仕事をするための支援、例えばコミュニティビジネスの支援や個々人がつくった商品の販売の支援などが必要ではないか。

【区内外の交流のために必要な交通機関の充実】

- 交流を促すための交通の整備

地域によって公共交通が不便であり、公共交通の境目で地域が分断されているという現状がある。西京区内をまわるコミュニティバスなど区内移動の利便性が高まる交通機関の検討が必要。また五条通JRTの検討など、区内利便性と合わせて、区内外の交流にもつながる交通機関の整備を計画的に考えるべきではないか。

【必要とされる居場所づくりから交流につなげる】

- 世代を超えた交流の場づくりで課題解決

高齢者の孤立や居場所づくり、保育や子どもの居場所づくり、多世代での料理教室など、世代を超えて交流し支えあえる場を空き家や空き室、遊休施設を活用し身近なところにつくることで、高齢者の孤立防止や子どもの見守りや保育など各世代抱える課題を解決できる機会にもなるのではないか。

3、ビジョン作成にむけた意見

- この場での議論がどうなったのか、進捗を隨時報告してもらいたい。

○ 芸大移転の跡地問題とこの場の意見交換会や懇談会の関係性が分からない。きちんと説明すべきである。